

海から陸へ、海外へ、そして建築へ——。 幾多の荒波を乗り越え、価値を創造し続け、 東洋建設グループは創立100周年へ

会社設立～終戦

1929～1945

会社設立

1929年7月3日、兵庫県武庫郡鳴尾村（現 西宮市）の沖合いを埋め立て、一大工業団地を造成することを目的に、山下汽船（現（株）商船三井）と南滿州鉄道の共同出資により、阪神築港株式会社として設立されました。この事業の発案者は、山下汽船の社長にして、当社初代社長に就任した山下龜三郎でした。

鳴尾埋立事業は1933年10月に着工しましたが、日中戦争の勃発により中断を余儀なくされました。その後、保有する浚渫船等を活用するために請負事業に進出し、終戦までに埋立・浚渫工事業界において屈指の地位につきました。



初代社長 山下龜三郎



当時の埋立計画図

終戦～昭和30年代

1945～1964

業容の拡大

終戦を迎えると一転して経営は大変厳しい状況に陥りましたが、1946年に受注した利根川流域の治水工事をきっかけに、苦境を脱しました。

1960年頃からは港湾整備予算が増加し、いわゆる「浚渫・埋立ブーム」が到来。埋立・浚渫工事の増加と大型化に対応するため、多くの作業船を建造し、施工能力の向上を図りました。

1961年大阪証券取引所へ上場、翌年には東京証券取引所に上場し、1964年5月には社名を「東洋建設株式会社」へ変更する等、着実に業容と信用の拡大を図りました。



社名変更広告



江戸時代から洪水に悩まされていた利根川の治水事業たる浚渫工事（千葉県）



戦後の食糧難を解消すべく行われた八郎潟干拓工事は泥との闘いだった（秋田県）

昭和40年代～50年代

1965～1984

飛躍 — 海外・建築へ—

戦前に中断していた鳴尾埋立事業は、関係先との協議を経て1967年に再開し、1976年に最終工区の埋め立てが完了しました。その後1982年に販売が完了したこの埋立地は「鳴尾浜」と命名され、現在多くの企業が立地しています。

1972年には海外事業に進出しました。なかでもフィリピンは、日本の建設会社のなかでも最も古い歴史があり、海外での事業活動における最重要拠点となっています。

そして1976年に建築事業へ進出した当社は総合建設業者として大きく飛躍することとなりました。



1975年完成間近の鳴尾浜。分譲時に75のユーザーが入居する工業団地となる（兵庫県）



フィリピンの食糧事情改善に貢献したナボタス漁港建設工事（フィリピン）



建築事業に進出した初期の作品。山下新日本汽船雪谷社宅（東京都）

昭和60年～平成10年

1985～1998

国家的プロジェクトへの参画

1980年代に入ると停滞していた国内景気は徐々に回復に転じ、バブル景気が到来しました。建設業界は内需主導型経済の牽引役となり、当社も明石海峡大橋、東京湾アクアライン、関西国際空港等、数々の国家的プロジェクトに参画してきました。しかしバブル景気が終焉を迎えると、不動産開発事業に傾注していた当社は、多くの不良資産を抱えることになり、後に大きな痛手を被ることになりました。

一方1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、関西発祥の会社として神戸港の早期復旧・復興に中心的な役割を果たしました。



増加する国際線を受け入れるため建設された関西国際空港は関西経済の浮揚に寄与した（大阪府）



現在の国内消費量9日分を備蓄している志布志石油備蓄基地の施工風景（鹿児島県）



阪神・淡路大震災で被災した岸壁のなかでも最速施工で供用開始に至った六甲アイランド岸壁工事（兵庫県）

平成11年～現在

1999～2022

創立100周年に向けて

21世紀に入り、国民の安全・安心の確保や国際競争力の強化、途上国のインフラ整備等の重要性が高まっています。特に近年は自然災害が多発しており、防災・減災への取り組みが大きなテーマとなっています。

さらにはカーボンニュートラルやエネルギー問題等多くの課題が取り巻くなか、当社はこれからも高い技術力を発揮し、国内外で多様化する社会基盤整備に貢献し続け、皆様の期待に応えることのできる会社として価値を生み続けながら創立100周年に向けて努力してまいります。



発着能力を30万回から41万回に引き上げた東京国際空港D滑走路外工事（東京都）



東日本大震災で被災した釜石湾口防波堤だが、7年後に復活。再び津波から街を守っている（岩手県）



新たなランドマークとなった鳥取市新本庁舎（鳥取県）



設計・施工で初のZEB-Readyを達成したフレンドビル（東京都）



海上物流の新拠点となるパティンバン新港外周護岸・防波堤築造工事（インドネシア）



アフリカの経済発展を後押しする東アフリカ最大級の物流拠点モンバサ港コンテナターミナル（ケニア）